

(論点及び留意事項)

施策の在り方、推進方策

- 国際的な競争に伍していくための機動性の確保
- 産業化に結びつけていく仕組みの構築
- 産学官の責任と役割の分担に対する考え方、これを前提にした連携のあり方の整理
- 競争と協調との関係(競争的資金の活用とプロジェクト研究開発経費の活用)の整理
- 拠点の整備とネットワーキングとの関係
- 政府が行うべき研究開発環境の整備
 - 知的財産権、国際標準の戦略的獲得
 - 「知」の構造化
 - 計量標準、標準物質の開発、データベースの構築などの知的基盤の整備
- 必要な人材の養成、確保
 - 人が足りないのはどこか。

(論点) 研究支援者の確保

- 研究開発の流動化を国是としている中、特にナノテクノロジーを実現するための装置類の操作等については習熟的技能が必要であり、実際のノウハウの蓄積等を考えていく上では、こうした研究支援者をプールするなど、その確保に向けた対応を抜本的に強化していくことが必要ではないか。

(参考) 科学技術基本計画における「研究支援の充実」の箇所の抜粋

研究支援業務は、研究開発に重要な役割を果たすものであり、その体制の充実を図る。その際、研究分野などにより必要とされる具体的な研究支援業務が多様であること、また研究環境の整備もより競争的に行われることから、全ての研究分野において一律に目標を掲げるのではなく、研究支援業務については研究費の中で適切な手当をすること等の対応を行う。この際、労働者派遣事業の活用、専門的業務の外部化等アウトソーシングが可能なものは積極的に活用することとし、ここの研究及び必要とされる支援業務の実情に応じた対応を図る。また、研究機関で共通的な支援業務や特に高度な技能を要する支援業務については、競争的資金の獲得により得た間接経費の活用等により研究機関内に集約して配置された者が共通的に行う方式や、特殊法人が所要の人員を提供する方式等により、確保する。

(論点) 推進に当たっての配慮事項

- 地球的課題への対応、自然と人間との共生について十分に留意すべきではないか。
- 研究者、技術者の社会的責任、アカウンタビリティ

ナノテクノロジー・材料技術により実現する「財」は、自然環境や生態系にも浸透するもの。したがって、既に得られている物質管理の知見等も最大限に活かした対応が必要。また、こうした技術が個々の研究者・技術者の社会的責任に対する意識の総和の上に成り立つものであることも肝に銘ずることが必要。